

平成 30 年の全数把握対象疾患

平成 30 年までの全数把握対象疾患の届出状況は、表 1 のようになっている。

1. 一類感染症

届出はなかった。

2. 二類感染症

結核は 234 例の届出があり、昨年の 285 例から減少した。類型は、患者 161 例、感染症死亡者の死体 3 例、疑似症患者 1 例、無症状病原体保有者 69 例であった。患者の病型は、肺結核が 119 例、その他の結核(結核性胸膜炎、結核性心膜炎、結核性髄膜炎、リンパ節結核、粟粒結核等)が 33 例、肺結核及びその他の結核が 9 例であった。全届出の年齢階層は、0 歳 7 例、1～10 歳未満 6 例、10 代 5 例、20 代 13 例、30 代 14 例、40 代 17 例、50 代 20 例、60 代 31 例、70 代 47 例、80 代 54 例、90 代 19 例、100 代 1 例で、80 代の届出が最も多く、70 歳以上が全体の 51.7%を占めていた(別添 1)。

3. 三類感染症

細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 26 例の届出があった。

細菌性赤痢は 10 月に届出があり、70 代女性で、菌種は *S.sonnei*(D 群)、山梨県の宿泊施設での喫食が原因と推定されている。

腸管出血性大腸菌感染症は、昨年よりわずかに増加した。類型は、患者 21 例、無症状病原体保有者が 5 例で、その年齢階層は、10 代 3 例、20 代 10 例、30 代 3 例、40 代 2 例、50 代 3 例、60 代 3 例、80 代 2 例であった。血清型・検出病原体は、O157 が 19 例(VT1&VT2 が 15 例、VT2 が 4 例)、O26 が 3 例(VT1 が 3 例)、O91 が 1 例(VT1&VT2 が 1 例)、O103 が 1 例(VT1 が 1 例)、O145 が 1 例(VT2 が 1 例)、O146 が 1 例(VT2 が 1 例)であった。推定感染経路は、経口感染が 14 例、不明が 12 例であった。経口感染が推定されている事例には、肉類を喫食した記載のある事例が 10 例あり、中でもユッケ等の生肉を喫食した記載のある事例が 3 例あった。また、生の鶏肉に触れた手指で直接飲食したとの記載も 1 例あった(別添 2)。

4. 四類感染症

A 型肝炎 7 例、デング熱 2 例、レジオネラ症 20 例の届出があった。

A 型肝炎は、平成 26 年に急増し、その後例年通りの 1～3 例の届出であったが、再び急増した。男性 5 例(30 代 1 例、40 代 2 例、50 代 1 例、80 代 1 例)、女性 2 例(40 代 1 例、70 代 1 例)であり、推定感染経路は、経口感染が 5 例、性的接触(同性間)1 例、不明が 1 例であった。経口感染が推定されている事例には、冷凍のエビや牡蠣等の海鮮物を喫食した記載のある事例が 3 例あった。なお、当センターのウイルス遺伝子検査により、5 例から I A 型を検出している。

デング熱は、5 月に 2 例(20 代男女 1 例ずつ)届出があり、患者の病型は 2 例ともデング熱型で、感染地域はともにタヒチであった。当センターで実施したウイルス遺伝子検査の結果は、2 例ともデング 1 型であった。

レジオネラ症 20 例の病型は全て肺炎型で、男性が 17 例(50 代 3 例、60 代 8 例、70 代 2 例、80 代 4 例)、女性が 3 例(70 代 2 例、80 代 1 例)であった。推定感染経路は水系感染が 8 例、

塵埃感染が1例、水系感染および塵埃感染が1例、不明が10例となっている。

5. 五類感染症

アメーバ赤痢9例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症45例、急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎7例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症15例、後天性免疫不全症候群6例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症28例、水痘(入院例)5例、梅毒53例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症7例、百日咳56例、風しん10例の届出があった。

アメーバ赤痢の病型は、腸管アメーバ症8例、腸管外アメーバ症1例であった。患者は、9例すべて男性(40代1例、50代2例、60代3例、70代3例)で、推定感染経路は経口感染1例、性的接触(同性間)1例、性的接触(異性間)2例、性的接触(経口)1例、性的接触(詳細不明)1例、その他として温水洗浄便座による感染が1例、不明が2例であった。推定感染地域は、奈良県3例、県外(都道府県不明含む)3例、不明が3例であった。70代からの届出のうち1例は、アメーバ性肝膿瘍の治療歴ありと記載されていた。

ウイルス性肝炎1例は20代男性で、病型はB型であり、B型肝炎ワクチンの接種歴はなかった。推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は全国的に届出が増加しており、本県でも平成26年に全数把握対象疾患に追加されてから、最も届出の多い年となった。男性30例(30代1例、40代1例、60代5例、70代11例、80代10例、90代2例)、女性15例(20代1例、40代1例、50代1例、70代4例、80代4例、90代3例、100代1例)であり、80代男性のうち1例は検体提出後に死亡している。全国での状況と同様に60歳以上が多く全体の8割以上を占めた。病原体検出部位・菌種としては、血液12例(*Enterobacter aerogenes* 2例、*Enterobacter cloacae* 2例、*Serratia marcescens* 3例、*Klebsiella pneumoniae* 3例、*Klebsiella oxytoca* 1例、*E. coli* 1例)、腹水2例(*Enterobacter aerogenes*、*Enterobacter cloacae*)、腹腔内膿瘍1例(*Enterobacter aerogenes*)、胆汁2例(*Enterobacter cloacae* 1例、不明1例)、血液・カテーテル1例(*Enterobacter cloacae*)、血液・喀痰1例(*Enterobacter aerogenes*)、喀痰7例(*Enterobacter aerogenes* 2例、*Enterobacter cloacae* 2例、*Klebsiella pneumoniae* 3例)、腹水・膿1例(*Klebsiella pneumoniae*)、膿3例(*Enterobacter aerogenes* 1例、*Enterobacter cloacae* 2例)、膿・褥瘡1例(大腸菌)、血液・尿2例(*Klebsiella oxytoca*、*E. coli*)、喀痰・尿2例(*Klebsiella pneumoniae* 2例)、尿8例(*Enterobacter aerogenes* 4例、*Enterobacter cloacae* 1例、*Serratia marcescens* 1例、*Klebsiella pneumoniae* 1例、*E. coli* 1例)、便汁1例(*Citrobacter freundii*)、膿分泌物1例(*Enterobacter aerogenes*)であった。推定感染経路は以前からの保菌が19例、中心静脈カテーテルからが5例、尿路カテーテルからが2例、手術部位(手術手技)が7例、その他院内感染が3例、受傷時1例、腸閉塞1例、不明7例であった。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)は、5月から全数把握対象に追加された疾患である。患者は、3歳男児で両下肢に弛緩性麻痺があり、その他に髄液細胞数増加、発熱、下痢、嘔吐の症状の記載があった。感染経路は不明であり、国立感染症研究所におけるウイルス遺伝

子検査では、便検体からのみコクサッキーA群6型を検出している。

急性脳炎の届出は、年々増加しており、類型は患者6例(1月:2歳女児、60代女性、2月:2歳男児、4月:12歳男児、12月:20代女性、40代女性)、感染症死亡者の死体1例(1月:30代男性)であり、この1例については、発病した翌日に死亡している。原因病原体は、1月の届出では全てインフルエンザAであり、2月ではインフルエンザBであった。また、12月の20代女性からはエコーウイルス11型を検出しており、その子ども(乳児)から感染したとされている。なお、その他は病原体不明となっている。

クロイツフェルト・ヤコブ病は、6月に60代男性、12月に70代男性の届出があった。病型は、両事例とも古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)であり、進行性認知症、ミオクロームスを呈していた。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、昨年より増加しており、患者は男性12例(40代1例、50代1例、60代5例、70代3例、80代2例)、女性3例(40代1例、80代2例)であった。このうち、60代男性1例の血清型はG群、80代男性2例の血清型はB群とC群、80代女性1例の血清型はG群であり、これら4例とも発病1~2日後に死亡しており、推定感染経路は80代女性1例が創傷感染であり、その他は不明であった。また、すべての事例でショック症状を呈していた。

後天性免疫不全症候群の届出は6例あった。1月は40代男性で病型は無症状病原体保有者、3月は60代男性で病型はAIDS、4月は50代男性で病型はAIDS、8月は2例あり30代男性で病型はAIDS、50代男性で病型は無症状病原体保有者、12月は20代女性で病型は無症状病原体保有者の届出があった。AIDSと診断した3例の指標疾患は、ニューモシスティス肺炎2例、活動性結核(肺結核又は肺外結核)1例であった。推定感染経路は、性行為感染(異性間性的接触)が2例、性行為感染(同性間性的接触)1例、性行為感染(異性間・同性間性的接触)1例、不明2例であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、1月に60代男性、5月に70代男性、10月に1歳男児、12月に70代男性の計4例の届出があり、このうち60代男性はヒブワクチンの接種歴無しであり、死亡している。また、1歳男児は、ヒブワクチンの接種歴が3回と記載されていた。

侵襲性髄膜炎菌感染症1例は、12月に届出のあった80代女性であり、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。なお、この女性は独居であり、濃厚接触者はみられないとされている。

侵襲性肺炎球菌感染症の届出は28例あり、昨年の40例から減少した。男性19例、女性9例で、2歳児1例、40代1例、50代1例、60代6例、70代11例、80代5例、90代2例、100代1例であった。ワクチン接種歴は、2歳男児では4回終了しており、その他接種歴有りは3例、接種歴無しは9例、不明15例であった。

水痘(入院例に限る)5例の病型は、臨床診断例4例、検査診断例1例であった。4歳女児、20代男性、30代男性、60代女性、70代男性の1例ずつであり、4歳女児のみワクチン接種が確認されている。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染が2例あり、そのうち1例は家族内感染が疑われる事例であった。その他、接触感染1例、院内感染1例、不明1例であった。

梅毒は平成 26 年より届出数の増加が続いており、昨年はやや減少したものの、平成 30 年には過去 10 年で最多の 53 例の届出があった。男性 43 例(10 代 2 例、20 代 9 例、30 代 12 例、40 代 9 例、50 代 4 例、60 代 6 例、80 代 1 例)、女性 10 例(10 代 1 例、20 代 4 例、30 代 1 例、40 代 1 例、50 代 1 例、70 代 2 例)であり、男性は全ての年代で増加し、特に 30 代の増加が著しい。また、平成 26 年度以降、10 代からの報告が続いている。なお、20 代女性の 1 例は、妊娠 23 週であった。患者の病型は、早期顕症梅毒 40 例(I 期:男性 24 例、女性 3 例、II 期:男性 10 例、女性 3 例)、晩期顕症梅毒 1 例(30 代男性 1 例)、無症候(無症状病原体保有者)12 例(男性 8 例、女性 4 例)であった。感染経路は性的接触が 46 例(同性間 4 例、異性間 33 例、経口 1 例、不明 8 例)、不明 7 例であり、同性間は男性のみであった。推定感染地は、奈良県が 16 例、奈良県以外(都道府県不明を含む)が 33 例あり、そのうち国外(タイ)1 例も含まれている。また、不明は 4 例であった(別添3)。

播種性クリプトコックス症 2 例は、いずれも 80 代男性であった。うち 1 例は、過去に鳩の飼育経験有りと記載されていた。

破傷風 1 例は 70 代女性で、感染原因や経路の記載はなく、症状からの臨床決定であった。症状は、筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害とされていた。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、過去 10 年で最多の 7 例届出があった。全て男性で、50 代 1 例、60 代 2 例、70 代 1 例、80 代 3 例であった。病原体検出部位・菌種としては、血液 4 例(*Enterococcus faecium* 3 例、不明 1 例)、腹水 2 例(*Enterococcus faecium*、*Enterococcus faecalis*)、後腹膜膿瘍 1 例(*Enterococcus faecium*)であった。このうち耐性遺伝子の検索は 2 例実施されており、それぞれ VanA、VanB であった。

百日咳は、1 月から全数把握対象に変更にされた疾患である。男性 24 例(6 ヶ月未満 6 例、5～10 歳未満 9 例、10 代 4 例、20 代 1 例、40 代 2 例、50 代 2 例)、女性 32 例(6 ヶ月未満 2 例、6 ヶ月～5 歳未満 3 例、5～10 歳未満 15 例、10 代 8 例、20 代 2 例、30 代 1 例、40 代 1 例)であり、小児だけでなく幅広い年齢層から届出があった。感染経路は家族内感染(母親)3 例、家族内感染(母親・同胞)1 例、家族内感染(同胞)8 例、家族内感染(祖母・叔母)1 例、家族内感染(不明)16 例、不明 20 例であり、その他学校での流行が 7 例あった。ワクチン接種歴は、6 ヶ月～未成年では 39 例中 36 例で 4 回接種の記載があり、3 例は不明であった。成人では、9 例中 2 例が接種歴無しで、7 例は不明であった。

風しんの届出は 10 例あり、平成 25 年以来の流行である。7 月末頃から関東地方で流行し始め、都市部から流行が拡大し、全国的に届出数が増加した。男性 7 例(20 代 1 例、30 代 1 例、40 代 2 例、50 代 2 例、60 代 1 例)、女性 3 例(10 代 1 例、20 代 1 例、50 代 1 例)であり、全国状況と同様、男性からの届出、特に 40～50 代からの届出が多かった。ワクチン接種歴は、50 代の男女 1 例ずつのみ接種歴有りの記載があったが、その他については無し、または不明であった。推定感染経路は、飛沫感染 2 例、職場における風しん患者との接触感染 1 例、その他は不明であった。推定感染地域は、奈良県 2 例、県外(都道府県不明含む)2 例、その他は不明であった。また、全て検査診断例であり、当センターでウイルス遺伝子検査が実施された 5 例からは全国的に検出されている 1E 型が検出されている。

表1 全数把握対象疾患報告状況

疾患名	調査年		平成19年(2007年)		平成20年(2008年)		平成21年(2009年)		平成22年(2010年)		平成23年(2011年)		平成24年(2012年)	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類														
エボラ出血熱														
クリミア・コンゴ出血熱														
痘そう														
南米出血熱														
ペスト														
マールブルグ病														
ラッサ熱														
二類														
急性灰白髄炎				2						2		1		
結核	21,946	247	28,419	372	26,996	371	26,866	287	31,483	361	29,317	424		
ジフテリア														
重症急性呼吸器症候群														
中東呼吸器症候群														
鳥インフルエンザ(H5N1)														
鳥インフルエンザ(H7N9)														
三類														
コレラ	13		45		16		11		12		3			
細菌性赤痢	452	2	320		181	2	235	2	300		214	5		
腸管出血性大腸菌感染症	4,617	50	4,322	38	3,889	50	4,134	53	3,940	24	3,768	17		
腸チフス	47		57	1	29		32	1	21		36			
パラチフス	22	1	27		27		21		23		24			
E型肝炎	56	2	43		56		66		61		121			
ウエストナイル熱														
A型肝炎	157	1	170	3	115	1	347	2	176		157			
エキノコックス症	25		22		27		17		20		17			
黄熱														
オウム病	29		9		21	1	11		12		8			
オムスク出血熱														
回帰熱								1	1				1	
キャサスル森林病														
Q熱	7		3		2		2		1		1			
狂犬病														
コクシジオイデス症	3		2		2		1		2		2			
サル痘														
ジカウイルス感染症														
重症熱性血小板減少症候群														
腎症候性出血熱														
西部ウマ脳炎														
ダニ媒介脳炎														
炭疽														
チクングニア熱											10			10
つつが虫病	382		442		465		407	2	462		436			1
デング熱	89	1	104		93		244	4	113		221			5
東部ウマ脳炎														
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)														
ニバウイルス感染症														
日本紅斑熱	98		132		132		132		190		171			
日本脳炎	10		3		3		4		9		2			
ハンタウイルス肺症候群														
Bウイルス病														
鼻疽														
ブルセラ症	1		4		2		2		2					
ベネズエラウマ脳炎														
ヘンドラウイルス感染症														
発しんチフス														
ポツリヌス症	3		2				1		6		3			
マラリア	52		56		56		73		78		72			1
野兔病			5											
ライム病	11		5		9		11		9		12			
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽							4		3					
レンオネラ症	668	3	893	5	717	4	751	1	818	9	899	8		
レプトスピラ症	35		42		16		22	1	26		30			
ロッキー山紅斑熱														
五類														
アメーバ赤痢	801	10	872	11	786	9	843	11	814	11	932	6		
ウイルス性肝炎	199	2	179		178		174	1	200		186			
B型	34	1	53	2	40	1	39		36		38			1
C型														
D型														
その他	4		9	1	5		7		14		12			
不明							1							
(再掲:合計)	237	3	241	3	223	1	221	1	250		236			1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症														
急性弛緩性麻痺														
急性脳炎	228		190		526	1	242	1	258		371			
クリプトスポリジウム症	6		10		17		16		8		6			
クロイツフェルト・ヤコブ病	157		152	2	142		172	3	138		185			3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	95	1	113		103	4	122		197	1	242			1
後天性免疫不全症候群	1,493	10	1,568	4	1,446	13	1,553	16	1,535	12	1,438	11		
シアルジア症	53	3	76		70	1	77		65	1	72			
侵襲性インフルエンザ菌感染症														
侵襲性髄膜炎菌感染症														
侵襲性肺炎球菌感染症														
水痘(入院例)														
先天性風しん症候群					2				1		4			
梅毒	719	3	839	1	691	2	621	3	827	6	875	6		
播種性クリプトコックス症														
破傷風	89	1	123		113		106		118		118			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症														
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	84	1	80		116		120	1	73		91			
百日咳														
風しん			303	2	147	2	87		378	1	2,386	18		
麻疹			11,015	12	732	3	447	3	439	2	283			
薬剤耐性アシネトバクター感染症														
髄膜炎菌性髄膜炎	17		10		10		7		12		15			1
新型インフルエンザ等														
新型インフルエンザ(A/H1N1)					12,654	305								

表1 全数把握対象疾患報告状況

疾患名	調査年		平成25年(2013年)		平成26年(2014年)		平成27年(2015年)		平成28年(2016年)		平成29年(2017年)		平成30年(2018年)	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類														
エボラ出血熱														
クリミア・コンゴ出血熱														
痘そう														
南米出血熱														
ペスト														
マールブルグ病														
ラッサ熱														
二類														
急性灰白髄炎	1													
結核	27,052	343	26,629	300	24,523	305	24,669	266	23,427	285	22,467	234		
ジフテリア														
重症急性呼吸器症候群														
中東呼吸器症候群														
鳥インフルエンザ(H5N1)														
鳥インフルエンザ(H7N9)														
三類														
コレラ	4		5		7		9		7		4			
細菌性赤痢	143	1	158		156	1	121	2	141		268	1		
腸管出血性大腸菌感染症	4,044	30	4,151	23	3,573	27	3,647	23	3,904	21	3,851	26		
腸チフス	65		53	2	37	1	52		37		35			
バラチフス	50		16		32	1	20		14		23			
E型肝炎	127		154		212	2	356	2	305	1	446			
ウエストナイル熱														
A型肝炎	128		433	8	243	2	272	3	285	1	926	7		
エキノコックス症	20		28		25		27		30		14			
黄熱														
オウム病	6		8		5		6		13		6			
オムスク出血熱														
回帰熱	1		1		4		7		8		6			
キャサスル森林病														
Q熱	6		1								3			
狂犬病														
コクシジオイデス症	4		2		3		3		4		2			
サル痘														
ジカウイルス感染症							12		5					
重症熱性血小板減少症候群	48		61		60		60		90		77			
腎症候性出血熱														
西部ウマ脳炎														
ダニ媒介脳炎							1		2		1			
炭疽														
チクングニア熱	14	1	16	1	17		14		5		4			
つつが虫病	344		320		422		505		447	1	455			
デング熱	249	2	341	3	293	4	342	5	245	4	201	2		
東部ウマ脳炎														
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)														
ニバウイルス感染症														
日本紅斑熱	175		241	1	215		277		337		305			
日本脳炎	9		2		2	1	11		3					
ハンタウイルス肺症候群														
Bウイルス病														
鼻疽														
ブルセラ症	2		10		5		2		2		3			
ベネズエラウマ脳炎														
ヘンドラウイルス感染症														
発しんチフス														
ポツリヌス症			1		1		5	1	4		2			
マラリア	47	2	60	1	40	2	54		61		50			
野兔病			1		2									
ライム病	20	1	17		9		8		19		13			
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽	4				1				1		2			
レンオネラ症	1,124	12	1,248	11	1,592	8	1,602	10	1,733	18	2,141	19		
レプトスピラ症	29		48		33		76		46		32			
ロッキー山紅斑熱														
五類														
アメーバ赤痢	1,047	8	1,134	15	1,109	18	1,151	11	1,089	9	842	9		
ウイ ル ス 性 肝 炎	236	2	188	1	206	2	228	1	241	1	214	1		
B型	30		27		35		35		31		29			
C型														
D型														
その他	20		11		14		17		22		33			
不明											1			
(再掲:合計)	286	2	226	1	255	2	280	1	295	1	277	1		
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症			314	5	1,671	28	1,573	22	1,660	27	2,289	45		
急性弛緩性麻痺											141	1		
急性脳炎	369		459	3	511	4	763	4	702	5	678	7		
クリプトスポリジウム症	25		98		15		14		19		25			
クロイツフェルト・ヤコブ病	203	8	177		192	2	175	3	200	3	220	2		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	203	1	268	2	415	2	494	5	587	10	693	15		
後天性免疫不全症候群	1,586	8	1,538	14	1,431	14	1,443	3	1,395	7	1,302	6		
シアルジア症	82	1	68		81		71	1	60	1	68			
侵襲性インフルエンザ菌感染症	108		200	2	252	3	312	6	372	3	488	4		
侵襲性髄膜炎菌感染症	23		37		34	1	43	1	25		37	1		
侵襲性肺炎球菌感染症	1,001	9	1,825	20	2,403	21	2,735	23	3,205	40	3,328	28		
水痘(入院例)			143	5	313	6	318	3	312	5	466	5		
先天性風しん症候群	32		9											
梅毒	1,228	6	1,661	16	2,690	19	4,575	36	5,826	29	7,001	53		
播種性クリプトコックス症			37		120		137	1	137	2	181	2		
破傷風	128	2	126	1	120		129	3	125	2	133	1		
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症														
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	55		56		66	1	61	5	83		80	7		
百日咳											12,104	56		
風しん	14,344	180	319	5	163	1	126		91	2	2,937	10		
麻疹	229		462	1	35	1	165	3	186	1	279			
薬剤耐性アシネトバクター感染症			15		38		33		28		24			
髄膜炎菌性髄膜炎	2													
新型イン フルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)													

ゼロ値は表示していない

結核

(別添1)

図-1 過去からの週別届出数の推移

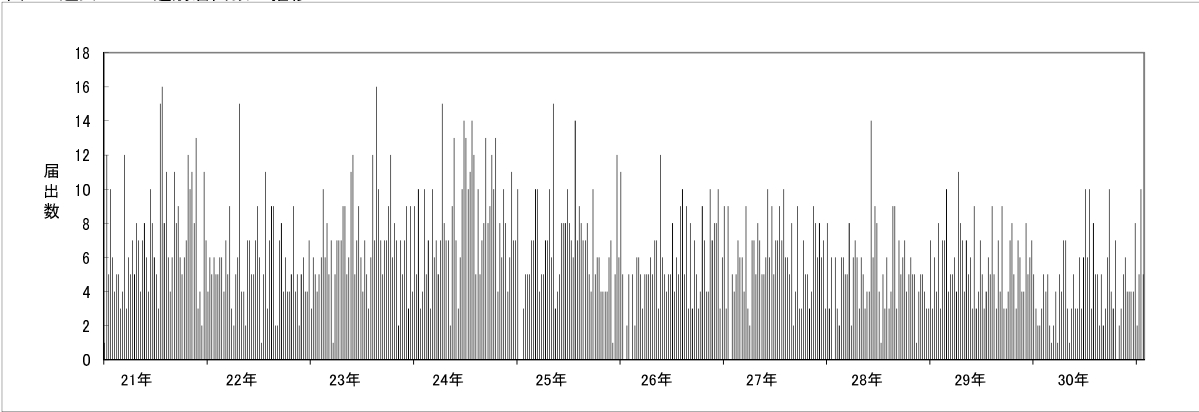


図-2 過去からの届出数の推移

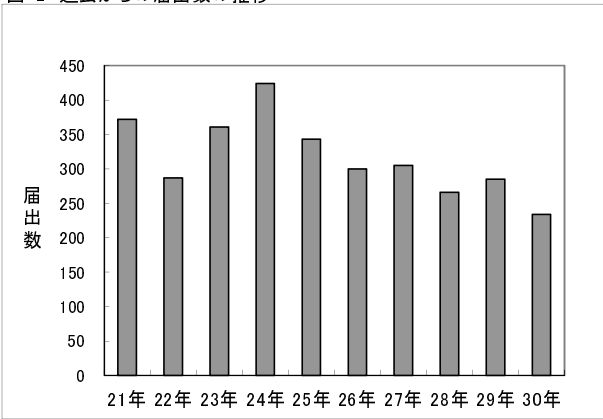


図-5 週別届出数

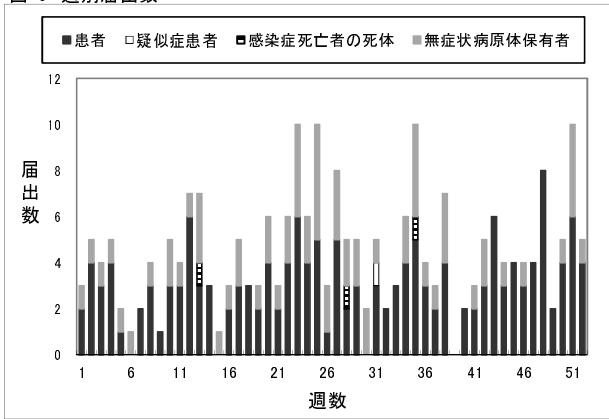


図-3 年齢別届出数

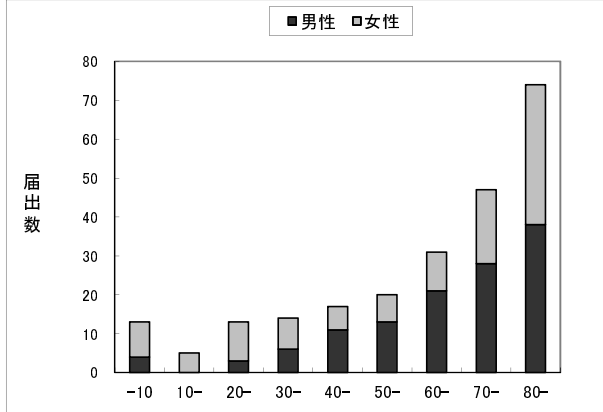


図-6 病型別

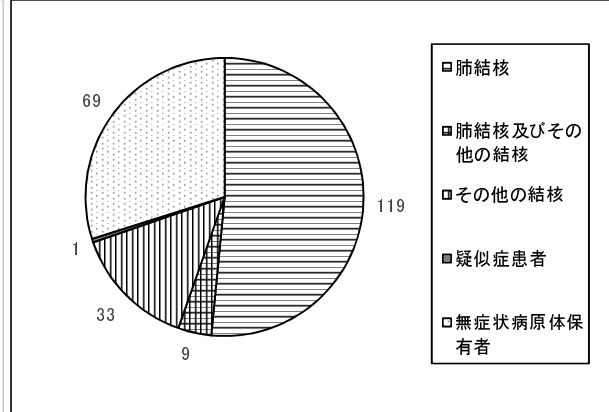
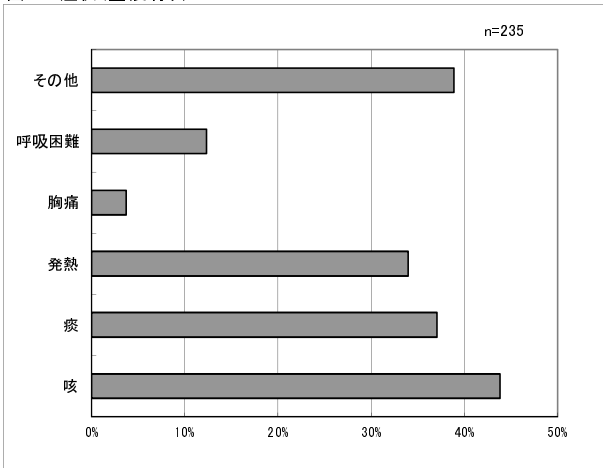


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:136例
 国内(県外・不詳):36例
 海外:6例

腸管出血性大腸菌感染症

(別添2)

図-1 過去からの週別届出数の推移

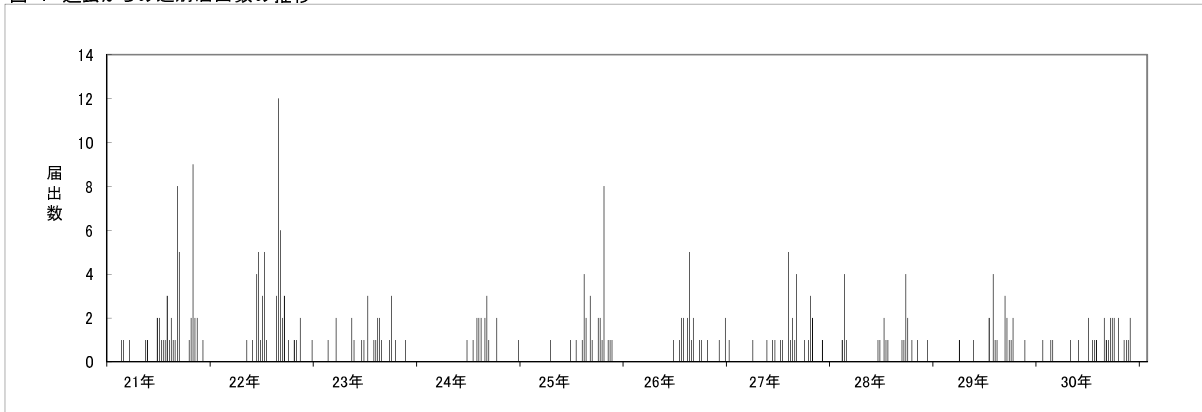


図-2 過去からの届出数の推移

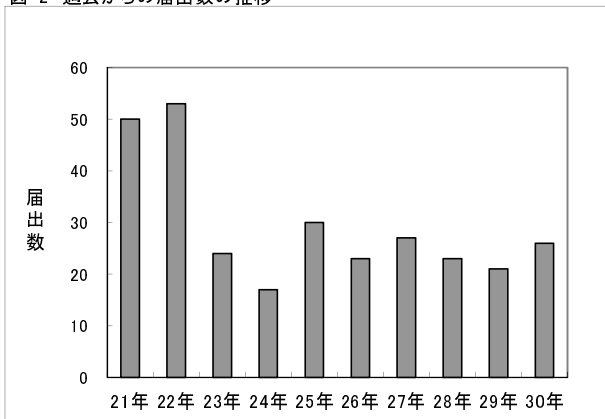


図-5 週別届出数

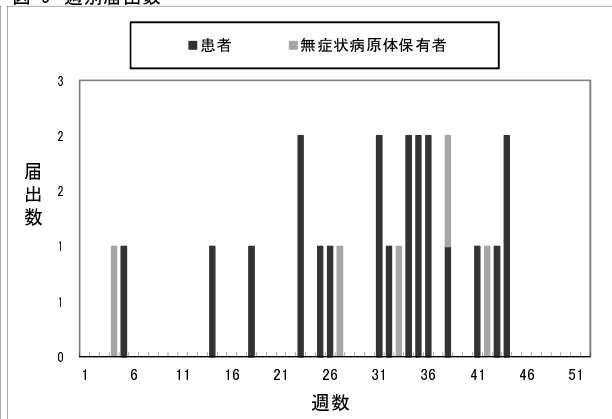


図-3 年齢別届出数

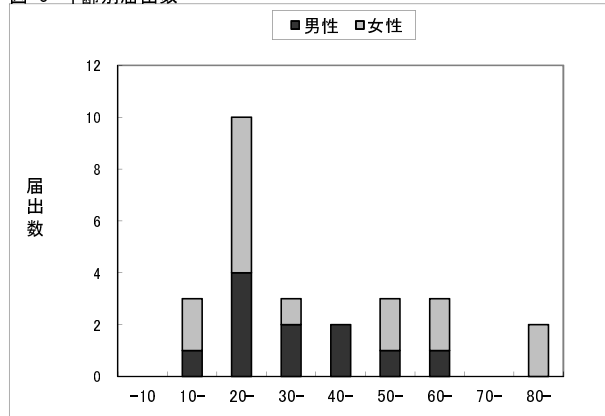


図-6 病型別

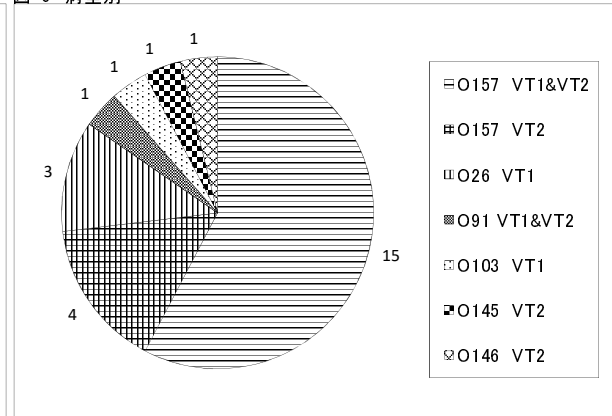
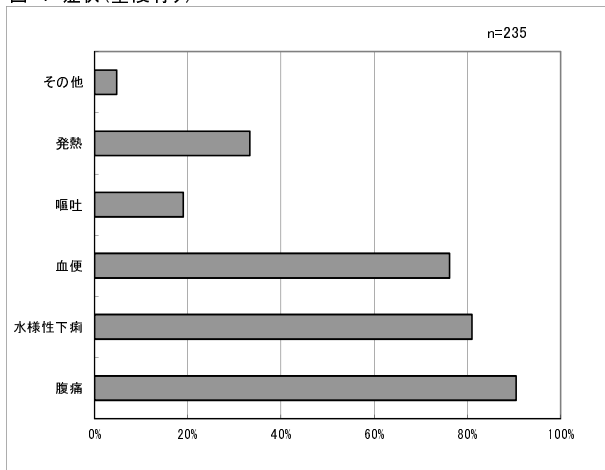


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:18例
 県外:3例
 国内(県外・不詳):3例
 海外:1例

感染経路(推定含む)
 経口感染:14例
 うち10名に肉類(生肉等が4例)の記載あり
 不明:12例

その他の症状:急性腎不全

梅毒

(別添3)

図-1 過去からの週別届出数の推移

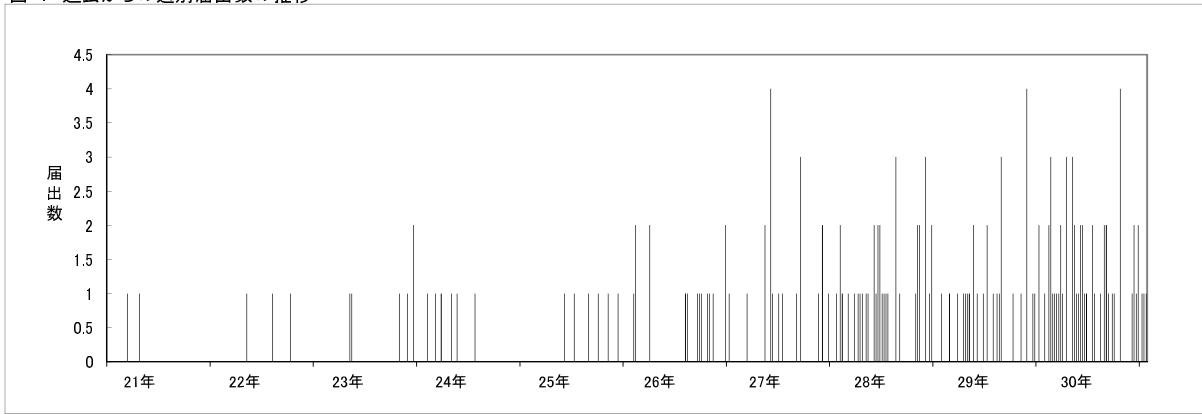


図-2 過去からの届出数の推移

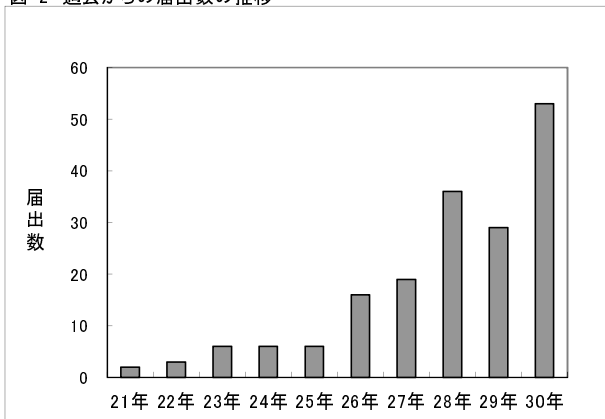


図-5 週別届出数

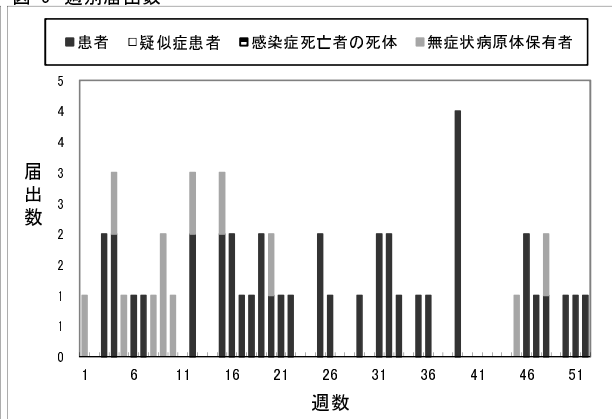


図-3 年齢別届出数

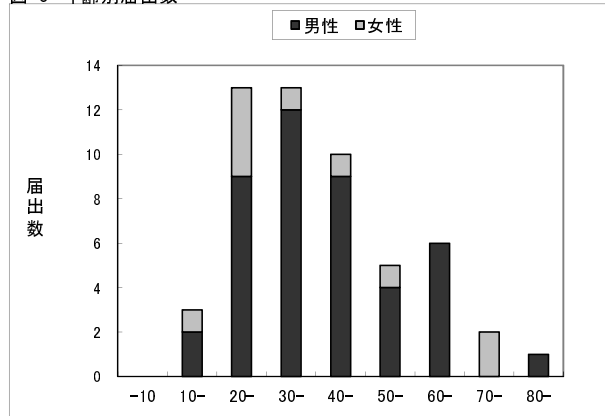


図-6 病型別

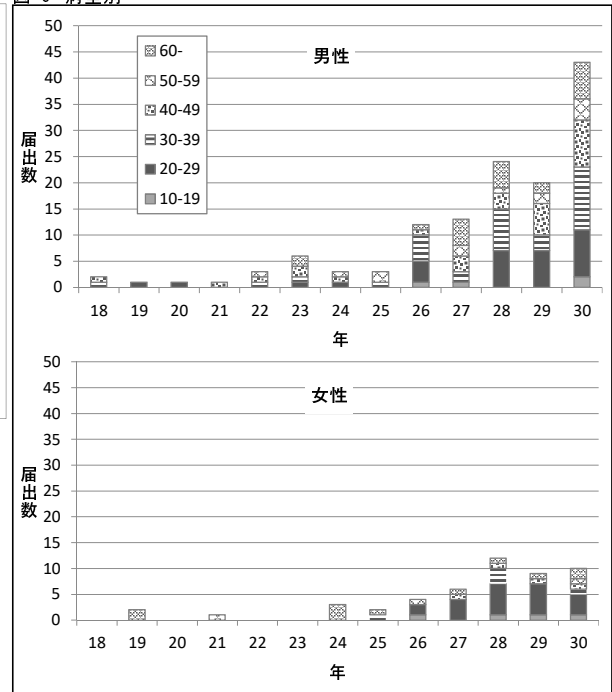
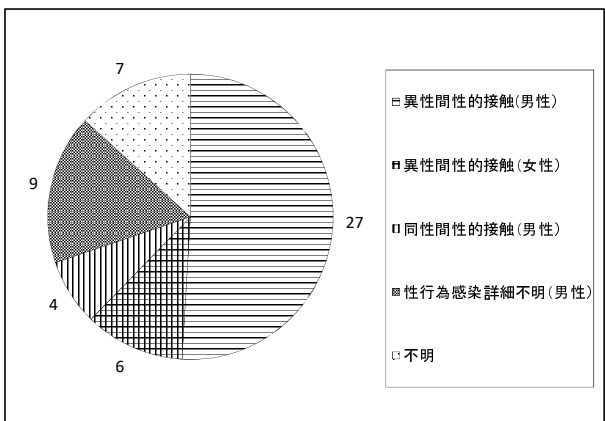


図-4 感染経路



概要

感染地域(推定含む)
 県内: 16例
 県外: 32例(国内不明含む)
 海外: 1例(タイ)
 不明: 4例